

事後評価結果（平成23年度）

担 当 課：九州地方整備局 道路部 道路計画第一課
担当課長名：廣瀬 健二郎

事業名 地域高規格道路 中九州横断道路 <small>いぬかいちとせどうろ</small> 一般国道57号 犬飼千歳道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局
起終点 自：大分県豊後大野市犬飼町下津尾 <small>おおいたけんぶんごおおのしいぬかいまちしもつお</small> 至：大分県豊後大野市千歳町新殿 <small>おおいたけんぶんごおおのしちとせまちにいの</small>		延長 4.3km

事業概要
 中九州横断道路は、大分市を起点として竹田市等を經由し熊本市に至る延長約120kmの自動車専用道路である。
 国道57号犬飼千歳道路は、中九州横断道路のうち起点を豊後大野市犬飼町下津尾、終点を豊後大野市千歳町新殿とする延長4.3kmの自動車専用道路である。

事業の目的・必要性
 国道57号犬飼千歳道路は、交通利便性の向上や地域間の連携・交流の支援を図り、沿線地域の産業発展や地域活性化に寄与するとともに、当該道路に並行する国道57号の代替機能も有する道路である。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：H7年度 都市計画決定：—	用地着手：H11年度 工事着手：H12年度	供用年：(当初) —/H28 (暫定/完成) (実績) H18/—	変 動	—倍
	事業費	計画時 (名目値) — / 200億円 (暫定/完成) (実質値) — / 189億円	実績 (名目値) 205 / —億円 (暫定/完成) (実質値) 193 / —億円		変 動	—倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成) 将来交通量 (H42) — / 27,900台/日	実績 (暫定/完成)	10,789 / — 台/日	変 動	—%
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)		37.0km/h → 70.0km/h (供用直前年次)H18年度 (供用後年次)H19年度	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)		31.1件/台キロ → 15.6件/台キロ (供用直前年次)H17~H18平均 (供用後年次)H19~H20年平均	
費用対効果分析結果 (前回再評価)		B/C : 2.7	総費用 : 217億円 (事業費: 196億円, 維持管理費: 20億円)	総便益 : 578億円 (走行時間短縮便益: 470億円, 走行経費減少便益: 52億円, 交通事故減少便益: 56億円)	基準年 : 平成16年	
費用対効果分析結果 (事後)		B/C : 1.2	総費用 : 268億円 (事業費: 251億円, 維持管理費: 17億円)	総便益 : 320億円 (走行時間短縮便益: 263億円, 走行経費減少便益: 32億円, 交通事故減少便益: 25億円)	基準年 : 平成23年	
事業遅延によるコスト増		費用増加額 : —億円	便益減少額 : —億円			
事業遅延の理由 特になし。						

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑なモビリティの確保（並行する国道57号（犬飼IC～千歳IC間）の損失時間の削減：削減率約7割）。 ・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成：大分市～豊後大野市間の所要時間の短縮（49分⇒43分））。 <p style="text-align: right;">他15項目に該当</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通混雑の緩和（下津尾交差点での最大渋滞長200mが解消）。 ・防災性の向上（並行する国道57号の代替路線が確保され、安全で信頼性の高い道路ネットワークが形成）。
事業による変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>当該道路は、平成10年6月に環境影響評価を実施しており、予測評価の結果、大気質、振動、動物については環境保全目標を満足している。なお、騒音については、環境保全目標を上回る予測評価結果となっているが、供用後の平成21年10月に当該道路の騒音測定した結果、昼間61dB、夜間56dBであり、いずれも環境基準値を満足している。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>並行する国道57号の騒音値が低減し、環境基準値を下回る（昼間：73.8dB⇒66.2dB、夜間：68.3dB⇒61.8dB）。</p>
事業評価監視委員会の意見	<p>特になし。</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・豊後大野市の人口は、減少傾向（H22/H2比で0.84倍）。 ・豊後大野市の高齢化率は37.3%(H22)であり、大分県平均（26.5%）を上回っている。 ・豊後大野市の世帯当りの自動車保有台数は増加傾向にあり、自動車交通への依存が高い(H22/H6比で1.41倍）。 ・並行する国道57号の交通量は、バイパス供用に伴い減少(H17：81百台/日、H19：24百台/日（57百台/日減少））。 ・豊後大野市の観光入込み客数は、大分県平均を大きく上回っており、増加傾向（H20/H3比で3.75倍）。
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・犬飼千歳道路の整備により、豊後大野市と大分市など結びつきが強い地域間の時間短縮（約6分短縮）や観光入込み客の増加（年間283万人⇒310万人）など、十分な効果が発現しているため、更なる事後評価の必要はないものと考えられる。 ・犬飼千歳道路は、中九州横断道路の一部区間であり、交通便利性の向上や地域間の連携・交流の支援、沿線地域の産業発展等を図り、国道57号の代替機能を有することを目的とした事業である。 ・犬飼千歳道路の整備により、『交通便利性の向上』や『地域間の連携・交流の支援』、『沿線地域の産業発展や地域活性化』等について所要の効果が得られており、今後の改善処置の必要はないものと考えられる。 ・ただし、当該事業は暫定2車線での供用であるため、当面の交通状況や広域的な交通需要の動向などから4車線化の必要性について検討することが必要である。
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・犬飼千歳道路については、事業化から概ね10年で暫定整備が完了することができた。 ・当該事業では、工事内容の周知や現場見学会の積極的な実施など、わかりやすい事業PRに努め、住民理解を得ることができた。引き続き説明責任の向上を図ることが重要である。 ・今後も事業期間の長期化を避けるために、計画段階から沿線住民との合意形成を図り、周辺環境に配慮しながら円滑な事業展開を行うことが必要である。 ・予算制約という状況下では、事業の長期化は避けられないものの、事業区間の中でも「選択と集中」を行い、緊急性の高い区間や供用効果が早期に発現される区間を評価し、事業の重点化を図ることが必要である。
特記事項	<p>特になし。</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。